

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成29年度第4・四半期
(平成30年1~3月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成30年1～3月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成30年3月）	23
4. 特別調査「経営者の健康管理と事業の継続について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 平成30年1月～3月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	87	86
卸 売 業	27	26
小 売 業	42	40
サ ー ビ ス 業	54	53
建 設 業	34	34
合 計	244	239

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

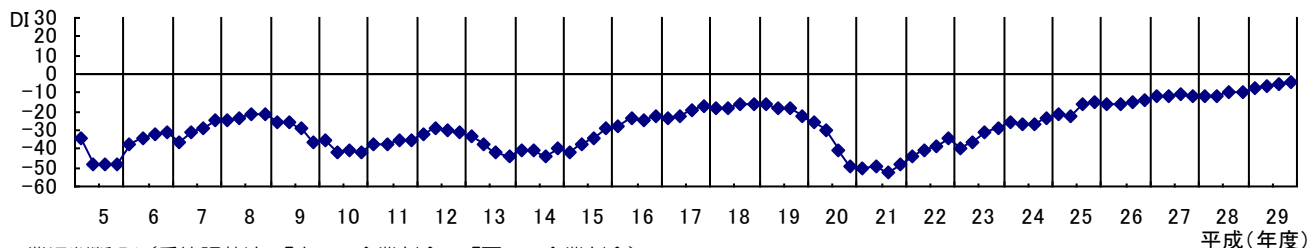
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（平成30年1～3月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

製造業、明るさ見える。～来期は不動産業以外の5業種で改善を予想～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-4.2（前期は-5.6）と前期に比べ1.4ポイント改善した。業種別に見ると、不動産業でやや好調感が強まり、製造業で水面下ながらやや明るさが見え、小売業で水面下ながらわずかに持ち直した。

来期は、建設業で強含み、製造業・卸売業・サービス業で明るさが見え、小売業で厳しさが和らぐと予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-4.5	-2.3	2.2	-0.2	2.1
卸 売 業	-6.7	-6.3	0.4	-2.2	4.1
小 売 業	-22.2	-20.0	2.2	-17.5	2.5
サ ー ビ ス	-5.3	-6.0	-0.7	-4.3	1.7
建 設 業	13.3	13.2	-0.1	15.3	2.1
不 動 産 業	8.0	10.6	2.6	9.6	-1.0
総 合	-5.6	-4.2	1.4	-2.1	2.1

<製造業>

業況は水面下ながらやや明るさが見えた。売上額・収益は前期同様変化なく、受注残は若干増加に転じた。価格面では、販売価格は幾分上昇に転じ、原材料価格はやや上昇が強まった。

業種別に見ると、「電気機械」はかなり良化し、「精密機械」「輸送用機械」「一般機械」はやや前期を上回った。「建設用金属」は前期同様の好調感が続き、「プラスチック」はわずかに前期を下回った。「ゴム製品」は若干好転し、「プレス・めっき」「化学工業」「食品」は前期同様変化がなかった。「繊維・衣服」「木材・家具」は水面下ながら大きく持ち直し、「金属製品」「印刷関連」は水面下ながら多少改善した。「紙・紙加工品」「皮革関連」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は水面下ながら改善すると予想している。売上額は好感度を強め、受注残・収益は今期同様の水準で推移するとみている。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はわずかに減少を強め、収益は増減なく推移した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格はやや上昇が強まった。

業種別に見ると、「機械器具」はやや好調感が後退し、「鉱物・金属材料」は前期同様変化がなかった。「化学製品」はかなり明るさが見え、「繊維・衣服」は水面下ながらかなり上向いた。「建築材料」は水面下ながらわずかに厳しさが和らぎ、「食品・飲食品」はやや悪化が強まった。

来期の業況は水面下ながら持ち直すかと予想している。売上額・収益は増加に転じるとみている。

<小売業>

業況は水面下ながらわずかに持ち直した。売上・収益はやや減少に歯止めがかかった。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「ガソリンスタンド・燃料」「家電・家庭用機械」「カメラ、時計・眼鏡」は水面下ながら大きく持ち直し、「飲食店」「飲食料品」はやや厳しさが和らいだ。「繊維・衣服・身の回り品」「自転車・自動車」は前期同様の厳しさが続き、「医薬品・化粧品」「書籍・文具」は幾分厳しさを増し、「スポーツ用品・玩具」「家具・建具・じゅう器」は大幅に深刻さを増した。

来期の業況は厳しさが和らぐとみている。売上額・収益は持ち直すかとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上は増減なく推移し、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格はほぼ横ばいで、材料価格はやや上昇傾向を強めた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」はわずかにプラスに転じ、「娯楽」は水面下ながら非常に大きく上向いた。「自動車整備・駐車場」は前期同様の厳しさが続き、「洗濯・理容・美容」はやや低調感を強めた。

来期の業況は水面下ながら上向くとみている。売上額・収益は上向くと予想している。

<建設業>

業況は前期並の好調感が続いた。売上額・収益は前期同様の増加が続き、受注残・施工高はやや増加傾向を強めた。価格面では、請負価格は前期並の上昇が続き、材料価格はわずかに上昇が強まった。

業種別に見ると、「職別工事」「設備工事」はわずかに好調感が強まり、「総合工事」はやや前期を下回った。

来期の業況は今期を上回ると予想している。売上額は堅調に推移し、受注残・施工高・収益は今期同様の増加が続くとみている。

<不動産業>

業況はやや好調感が強まった。売上額は幾分堅調に推移し、収益はかなり好調さを強めた。価格面では、販売価格・仕入価格ともにやや上昇傾向を強めた。業種別に見ると、「建売・土地売買」「不動産代理・仲介」はやや良化した。

来期の業況は今期並の好調感が続くとみている。売上額・収益は伸び悩むと予想している。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査におけるD.Iは季調済D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。